بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

イスラームの英雄

第 3 巻

ハーリド・ブン・アル＝ワリード

アッラーの剣、ヤルムークの司令官 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

إِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلَّذِينَ يُقَٰتِلُونَ فِى سَبِيلِهِۦ صَفًّا كَأَنَّهُم بُنْيَٰنٌ مَّرْصُوصٌ ﴿٤﴾

「本当にアッラーの御好みになられる者は，堅固な建造物のように，戦列を組んでかれの道のために戦う者たちである。」

戦列章 61:4

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | facebook.com/QuranScienceMY

quranscience.my で無料のデジタル版を読むには、こちらをスキャンしてください

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の本。販売はできません。

謝辞

人の心を変え、御望みの者を導かれるアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たち、とりわけ彼が「アッラーの剣」と名づけたハーリド・ブン・アル＝ワリード رضى الله عنه に祝福と平安あれ。

この本を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『イスラームの英雄』第 3 巻は、ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضى الله عنه の生涯を語ります。ウフドでクライシュ族の司令官だったのちにイスラームに入信し、ムウタで軍を救い、リッダ戦争を指揮し、イラクを開き、ヤルムークの勝利を導いた人です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、日の出のときのシリアとヨルダンの国境にある***ヤルムーク川の谷***です。深い峡谷、玄武岩の崖、そして谷底を曲がりくねって流れる川が見えます。ハーリドはヒジュラ暦 15 年、この谷でビザンツ軍に対する大勝利を導きました。

大きな岩の上には、朝の光に輝く***折れていないイエメンの剣***が置かれています。その周りには***折れた剣のかけら***が散らばっています。これはハーリド自身の言葉を思い起こさせます。「ムウタの日、私の手の中で九本の剣が折れた。私の手には幅広のイエメンの剣しか残らなかった」（『サヒーフ・ブハーリー』4265）。

右側では、木の槍の先に***白い旗***がはためいています。これは、三人の司令官が殉教したのちにハーリドが手にしたムウタの旗を表しています。「ついにアッラーの剣の一つが旗を取った」（『サヒーフ・ブハーリー』3757）。

下部の***紺色の帯***は、***細い金色の線***に縁取られ、著者名が記される場所です。『イスラームの英雄』の表紙がすべてそろうよう、第 1 巻と第 2 巻の表紙と同じ形にしています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

ハーリド・ブン・アル＝ワリード 5
1. ハーリドとは誰か 6
2. ウフドのクライシュ騎兵隊長 9
3. 塹壕とフダイビーヤ 11
4. ハーリドの入信 12
5. ムウタ：アッラーの剣の誕生 14
6. 折れた九本の剣 17
7. マッカの征服 19
8. ジャズィーマ族：過ちからの教訓 21
9. ドゥーマト・アル＝ジャンダルとナジュラーン 24
10. アッラーの道に寄進された武器 25
11. 「私の教友たちをののしってはならない」 27
12. 「私は人の心を探るよう命じられていない」 29
13. 「アッラーの良きしもべ」 32
14. リッダ戦争とヤマーマ 34
15. イラクと砂漠の横断 36
16. ヤルムーク：最大の勝利 38
17. ウマルによる解任 40
18. 寝床での最期 42
19. ハーリドの物語の典拠 44
20. ハーリドの物語に登場する人物 46
21. ハーリドの物語に登場する場所 47
22. ハーリドの生涯の年表 48
23. ハーリドについてよくある質問 49
24. 教訓と結び 52
参考文献 54
支援と寄付 56

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。

ハーリド・ブン・アル＝ワリード

ウフドの戦いでムスリム軍を打ち破り、のちに一度も敗れることのないイスラームの司令官となった人がいます。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が彼を *「サイフッラー」*、*すなわちアッラーの剣*と呼ばれました。それが*ハーリド・ブン・アル＝ワリード* رضى الله عنه です。

ハーリドはヒジュラ暦 8 年にイスラームに入信しました。そのわずか数か月後、ムウタで三人の司令官を失ったムスリム軍を救いました。アッラーの使徒 ﷺ の逝去後は、リッダ戦争、イラク、シャームで軍を率い、*ヤルムーク*での大勝利に至りました。

この電子書籍は *『イスラームの英雄』* シリーズの第 3 巻です。これまでの巻と同じく、ハーリド رضى الله عنه の物語を、まずクルアーンと真正なハディースから、次に信頼できるスィーラ（預言者伝）と歴史の書から集めています。すべての伝承に出典を示し、有名でも伝承経路が弱い話はそのことを正直に説明します。

ハーリドの物語には、過ちと正されたことも含まれています。アッラーの使徒 ﷺ は、ハーリドがジャズィーマ族にしたことから身を引くと宣言され、アブドゥッラフマーン・ブン・アウフをののしったことを戒められました。これらの話も公正に語ります。教友たちもまた、忠告を受け入れて真理に立ち返る人間だったことを教えてくれるからです。

ハーリドとは誰か

彼の正式な名は*ハーリド・ブン・アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ*・アル＝マフズーミー・アル＝クラシーです。クンヤ（呼び名）は*アブー・スライマーン*です。クライシュ族の中でも最も裕福で有力な氏族の一つ、マフズーム家の出身です。マフズーム家は、クライシュ族の馬と戦の装備を整える役目を担っていました。

父*アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ*は、マッカで最も裕福な指導者の一人で、アッラーの使徒 ﷺ に最も激しく敵対した者の一人でした。母*ルバーバ・アッ＝スグラー・ビント・アル＝ハーリス*は、アッラーの使徒 ﷺ の妻*マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス* رضي الله عنها の姉妹です。つまりマイムーナはハーリドのおばであり、アブドゥッラー・ブン・アッバースのおばでもあります。

この家族のつながりは真正なハディースに出てきます。このハディースは、*「アッラーの剣」*という呼び名が教友たちの間で知られていたことも示しています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 5391 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مُقَاتِلٍ أَبُو الْحَسَنِ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا يُونُسُ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبُو أُمَامَةَ بْنُ سَهْلِ بْنِ حُنَيْفٍ الأَنْصَارِيُّ، أَنَّ ابْنَ عَبَّاسٍ، أَخْبَرَهُ أَنَّ خَالِدَ بْنَ الْوَلِيدِ الَّذِي يُقَالُ لَهُ سَيْفُ اللَّهِ أَخْبَرَهُ أَنَّهُ، دَخَلَ مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى مَيْمُونَةَ ـ وَهْىَ خَالَتُهُ وَخَالَةُ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ فَوَجَدَ عِنْدَهَا ضَبًّا مَحْنُوذًا، قَدِمَتْ بِهِ أُخْتُهَا حُفَيْدَةُ بِنْتُ الْحَارِثِ مِنْ نَجْدٍ، فَقَدَّمَتِ الضَّبَّ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَكَانَ قَلَّمَا يُقَدِّمُ يَدَهُ لِطَعَامٍ حَتَّى يُحَدَّثَ بِهِ وَيُسَمَّى لَهُ، فَأَهْوَى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَدَهُ إِلَى الضَّبِّ، فَقَالَتِ امْرَأَةٌ مِنَ النِّسْوَةِ الْحُضُورِ أَخْبِرْنَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا قَدَّمْتُنَّ لَهُ، هُوَ الضَّبُّ يَا رَسُولَ اللَّهِ. فَرَفَعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَدَهُ عَنِ الضَّبِّ، فَقَالَ خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ أَحَرَامٌ الضَّبُّ يَا رَسُولَ اللَّهِ قَالَ " لاَ وَلَكِنْ لَمْ يَكُنْ بِأَرْضِ قَوْمِي فَأَجِدُنِي أَعَافُهُ ". قَالَ خَالِدٌ فَاجْتَرَرْتُهُ فَأَكَلْتُهُ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَنْظُرُ إِلَىَّ.

訳：

イブン・アッバースは伝えています。 ***「アッラーの剣」と呼ばれるハーリド・ブン・アル＝ワリード***が彼に語ったところによると、ハーリドはアッラーの使徒 ﷺ と一緒にマイムーナのもとに入りました。マイムーナはハーリドのおばであり、イブン・アッバースのおばでもありました。彼女のところには、姉妹のフファイダ・ビント・アル＝ハーリスがナジュドから持って来た、焼いたダッブ（砂漠のトカゲ）がありました。彼女はそのダッブをアッラーの使徒 ﷺ に差し出しました。彼は、何の食べ物かを聞かされるまで、めったに食べ物に手を伸ばされませんでした。アッラーの使徒 ﷺ がダッブに手を伸ばされると、その場にいた女性の一人が言いました。「アッラーの使徒 ﷺ に、何をお出ししたのか伝えなさい。アッラーの使徒よ、それはダッブです。」するとアッラーの使徒 ﷺ は手を引かれました。ハーリドは尋ねました。「アッラーの使徒よ、ダッブは禁じられているのですか。」彼は言われました。 ***「いいや。だが、それは私の民の土地にはないので、私は気が進まないのだ。」*** ハーリドは言いました。「そこで私はそれを引き寄せて食べました。アッラーの使徒 ﷺ は私をご覧になっていました。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ムカーティル ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ユーヌス・ブン・ヤズィード ← ズフリー ← アブー・ウマーマ・ブン・サフル・ブン・フナイフ ← イブン・アッバース ← ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』食物の書、ハディース第 5391 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:5391

名前と呼び名

名前・呼び名	説明
ハーリド	「永遠に続く者」という意味
アブー・スライマーン	クンヤ。息子スライマーンにちなむ

名前・呼び名	説明
サイフッラー	「アッラーの剣」。ムウタの戦いの後、アッラーの使徒 ﷺ が与えた呼び名（『サヒーフ・ブハーリー』3757）
アル＝マフズーミー	クライシュ族マフズーム家の出身を示す

教訓

このハディースは、家族の家の中でハーリドがアッラーの使徒 ﷺ にどれほど近かったかを示しています。また作法も教えています。アッラーの使徒 ﷺ は、自分が好まないというだけで何かを禁じられませんでした。人が好まないものが、必ずしも禁じられたものではないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドのクライシュ騎兵隊長

ハーリドはイスラームに入信する前、クライシュ族の騎兵隊の指揮官の一人でした。戦場での素早い判断と、敵の弱点を見抜く力で知られていました。

ウフドの戦い（ヒジュラ暦3年シャウワール月）では、ムスリム軍は勝利目前でした。ところが、アッラーの使徒 ﷺ が丘（射手の丘）に配置した射手の多くが、アッラーの使徒 ﷺ に禁じられていたにもかかわらず、戦利品を集めるために持ち場を離れました。

スィーラの注：ハーリドの背後からの攻撃

クライシュ軍の右翼で騎兵を率いていたハーリドは、丘が空になったのを見ました。彼はすぐに騎兵を連れて丘を回り込み、ムスリム軍を背後から攻撃しました。戦況は一瞬で変わりました。

この攻撃で、ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ رضى الله عنه を含む多くの教友が殉教しました（第1巻参照）。アッラーの使徒 ﷺ ご自身も負傷されました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』ウフドの戦いの章；ワーキディー『マガーズィー』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アッラーはクルアーンでこの出来事に触れ、軍の一部が命令に背いた後に試練が訪れたことを明らかにされています：

イムラーン家章 3:152

وَلَقَدْ صَدَقَكُمُ ٱللَّهُ وَعْدَهُۥٓ إِذْ تَحُسُّونَهُم بِإِذْنِهِۦ ۖ حَتَّىٰٓ إِذَا فَشِلْتُمْ وَتَنَٰزَعْتُمْ فِى ٱلْأَمْرِ وَعَصَيْتُم مِّنۢ بَعْدِ مَآ أَرَىٰكُم مَّا تُحِبُّونَ ۚ مِنكُم مَّن يُرِيدُ ٱلدُّنْيَا وَمِنكُم مَّن يُرِيدُ ٱلْءَاخِرَةَ ۚ ثُمَّ صَرَفَكُمْ عَنْهُمْ لِيَبْتَلِيَكُمْ ۖ وَلَقَدْ عَفَا عَنكُمْ ۗ وَٱللَّهُ ذُو فَضْلٍ عَلَى ٱلْمُؤْمِنِينَ ﴿١٥٢﴾

本当にあなたがたが，アッラーの許しの下に，敵を撃破した時，かれはあなたがたへの約束を果たされた。だがかれが，あなたがたの好むもの（戦利品）を見せられた後，しりごみするようになり，事に当って争いはじめ，ついに命令に背くようになった。あなたがたの中には，現世を欲する者もあり，また来世を欲する者もある。そこでかれは試みのために，あなたがたを敵から退却させられた。だがかれは，もうあなたがたを許された。アッラーは信者たちには，慈悲深くあられる。

訳：三田了一 — quran.com/3:152

教訓

ウフドでのつまずきは、敵の強さだけによるものではなく、アッラーの使徒 ﷺ の命令に背いたことによるものでした。そして不思議なことに、その過ちを突いた司令官が、のちにイスラームの剣となりました。アッラーは御望みのままに人の心を変えられます。

塹壕とフダイビーヤ

ウフドの後も、ハーリドはクライシュ軍にとどまりました。***塹壕の戦い***（ヒジュラ暦 5 年）では、ムスリムがマディーナの北に掘った塹壕を越える隙間を探した騎兵の中にいましたが、成功しませんでした。

ヒジュラ暦 6 年、アッラーの使徒 ﷺ は約 1,400 人の教友とともにウムラ（小巡礼）のためマッカへ向かわれました。クライシュ族は彼を阻むために騎兵を送り、その騎兵を率いていたのがハーリドでした。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。 ***「ハーリド・ブン・アル＝ワリードは、クライシュの騎兵を先遣隊として、ガミームにいる。右の道を取りなさい。」*** （『サヒーフ・ブハーリー』2731）

アッラーの使徒 ﷺ は衝突を避け、別の道を通ってフダイビーヤに着かれました。そこでフダイビーヤ和約が結ばれ、アッラーはのちにこれを「明白な勝利」と呼ばれました（勝利章 48:1）。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、平和に目的を達せられるときに戦いを求められませんでした。彼は戦いではなく、崇拝のために来られたのです。フダイビーヤの和平は布教の広い扉を開き、その平和な時期に、ハーリドを含む多くのクライシュの指導者がイスラームについて考え直し始めました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーリドの入信

ヒジュラ暦8年の初め、ハーリドはマッカを出てマディーナへ向かいました。途中で、同じくイスラームに入信するために旅をしていた***アムル・ブン・アル＝アース***と***ウスマーン・ブン・タルハ***に出会い、三人はそろってマディーナに着きました。

スィーラの注：「あなたには分別があると思っていた」

スィーラの書は、ハーリドがこう語ったと伝えています。アッラーは私の心にイスラームへの愛を入れてくださった。私はムハンマドに対するすべての戦いに加わったが、そのたびに、自分は間違った側にいて、ムハンマドが勝つだろうと感じていた。

ハーリドが着いてアッラーの使徒 ﷺ にあいさつすると、彼は明るい顔で迎えられました。ハーリドが信仰告白をすると、アッラーの使徒 ﷺ は言われました。***「あなたを導かれたアッラーに讃えあれ。私はあなたに分別があると見ていた。それがあなたを善にのみ導くことを願っていたのだ。」***

それからハーリドは、イスラームへの敵対について自分のために赦しを請うてほしいとアッラーの使徒 ﷺ に頼みました。彼は、イスラームはそれ以前のものを消し去ると告げ、それでも彼のために祈られました。

伝承の評価：ハーリドのマディーナへの旅の話は、ワーキディーとスィーラの学者が伝えています。ワーキディーはハディースの伝承では弱いとされますが、戦いの歴史では主要な資料です。話の核心、つまりハーリドとアムルがマッカ征服の前に入信したことは、歴史家の間で一致しています。

参照：

ワーキディー『マガーズィー』；イブン・サアド『大列伝』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イスラームがそれ以前の罪を消すという原則は、真正なハディースで確かめられています。ハーリドの旅の仲間アムル・ブン・アル＝アースは、アッラーの使徒 ﷺ が彼に言われたことを伝えています。***「イスラームがそれ以前のものを打ち壊すこと***

を知らないのか。」（『サヒーフ・ムスリム』121）。アッラーもこう言われています：

戦利品章 8:38

قُل لِّلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ إِن يَنتَهُواْ يُغۡفَرۡ لَهُم مَّا قَدۡ سَلَفَ وَإِن يَعُودُواْ فَقَدۡ مَضَتۡ سُنَّتُ ٱلۡأَوَّلِينَ ﴿٣٨﴾

不信心の者に言ってやるがいい。「あなたがたが（信者に対する迫害を）止めるならば，過去のことは赦されよう。」だがかれらがもし繰り返すなら，昔の先例が既にあるのだ。

訳：三田了一 — quran.com/8:38

教訓

人の過去は、その人の未来への扉を閉ざしません。ウフドでムスリムを攻撃したハーリドは、明るい顔で迎えられました。アッラーの使徒 ﷺ は過去を責めず、彼の中の善、つまり分別を見られたのです。イスラームは、立ち返る人をこのように迎えます。

ムウタ：アッラーの剣の誕生

ヒジュラ暦 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月、ハーリドの入信からわずか数か月後、アッラーの使徒 ﷺ は約 3,000 人の軍を、シャーム南部（現在のヨルダン）の*ムウタ*に送られました。はるかに数の多いビザンツ軍とそのアラブの同盟軍に立ち向かうためです。

アッラーの使徒 ﷺ は三人の司令官を順に任命されました。*ザイド・ブン・ハーリサ*、彼が倒れたら*ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ*、彼も倒れたら*アブドゥッラー・ブン・ラワーハ*です。ハーリドは一兵士として加わりました。遠くムウタで戦

いが続く中、アッラーの使徒 ﷺ はマディーナの教友たちにその様子を告げられました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3757 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ وَاقِدٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ زَيْدٍ، عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ حُمَيْدِ بْنِ هِلاَلٍ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم نَعَى زَيْدًا وَجَعْفَرًا وَابْنَ رَوَاحَةَ لِلنَّاسِ قَبْلَ أَنْ يَأْتِيَهُمْ خَبَرُهُمْ، فَقَالَ " أَخَذَ الرَّايَةَ زَيْدٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَ جَعْفَرٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَ ابْنُ رَوَاحَةَ فَأُصِيبَ ـ وَعَيْنَاهُ تَذْرِفَانِ ـ حَتَّى أَخَذَ سَيْفٌ مِنْ سُيُوفِ اللَّهِ حَتَّى فَتَحَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ ".

訳：

アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ が、知らせが届く前に、ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハの死を人々に告げられたと伝えています。彼は言われました。*「ザイドが旗を取り、倒れた。次にジャアファルが取り、倒れた。次にイブン・ラワーハが取り、倒れた」* ― そのとき彼の両目からは涙が流れていました ― *「ついにアッラーの剣の一つが旗を取り、アッラーは彼らに勝利を与えられた。」*

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ワーキド ← ハンマード・ブン・ザイド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← フマイド・ブン・ヒラール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友の美徳の書、ハーリド・ブン・アル＝ワリードの美徳の章、ハディース第 3757 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:3757

三人の司令官がみな倒れた後、サービト・ブン・アクラムが旗を取り、ムスリムたちに指導者を選ぶよう呼びかけました。彼らは***ハーリド***を選びました。入信してわずか数か月の人に、軍の最も危機的な瞬間の指揮が託されたのです。

教訓

殉教者たちのためのアッラーの使徒 ﷺ の涙と、ハーリドへの賞賛は、同じ一息の中で語られました。失った悲しみは、軍を救った者を称えることを妨げませんでした。「アッラーの剣」という呼び名は、力はアッラーのものであることも思い出させます。ハーリドは、アッラーの定めの手にある一本の剣にすぎなかったのです。

折れた九本の剣

ムウタでの戦いは激しいものでした。ハーリド自身が、その日の戦いの激しさを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4265 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ، عَنْ قَيْسِ بْنِ أَبِي حَازِمٍ، قَالَ سَمِعْتُ خَالِدَ بْنَ الْوَلِيدِ، يَقُولُ لَقَدِ انْقَطَعَتْ فِي يَدِي يَوْمَ مُوتَةَ تِسْعَةُ أَسْيَافٍ، فَمَا بَقِيَ فِي يَدِي إِلاَّ صَفِيحَةٌ يَمَانِيَةٌ.

訳：

カイス・ブン・アビー・ハーズィムは言いました。私はハーリド・ブン・アル＝ワリードがこう言うのを聞きました。*「ムウタの日、私の手の中で九本の剣が折れた。私の手には幅広のイエメンの剣しか残らなかった。」*

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム・アル＝ファドル・ブン・ドゥカイン ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← カイス・ブン・アビー・ハーズィム ← ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ムウタの戦いの章、ハディース第 4265 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:4265

スィーラの注：軍を救ったハーリドの作戦

ムスリムたちは、自分たちの何倍もの敵と向き合っていました。歴史家によれば、ハーリドは夜のうちに隊列を組み替えました。前衛を後ろに、右翼を左に移し、一部の兵を後方に置いて、朝に砂ぼこりを上げ大きな声を出しながら進んで来るようにさせました。

ビザンツ軍は、マディーナから大きな援軍が来たと思い込み、ひるみました。ハーリドはムスリム軍を秩序正しく安全に退却させ、兵の大部分は無事にマディーナに帰りました。

アッラーの使徒 ﷺ の言葉 ***「アッラーは彼らに勝利を与えられた」*** の意味はここにあります。小さな軍は全滅を免れ、名誉を保って帰ったのです。

参照：

ワーキディー『マガーズィー』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース第 4262 番の注釈。

この電子書籍の表紙には、折れた剣のかけらに囲まれた、岩の上の折れていないイエメンの剣が描かれています。これはこのハディースの象徴です。九本の剣は折れましたが、忍耐とアッラーの助けは残ったのです。

教訓

勝利とは、いつも敵を打ち負かすことではありません。兵の命を救い、賢く退くことが勝利である場合もあります。ハーリドは、一人のムスリムの命が栄光よりも尊いことを理解していました。賢い退却は、すべてを滅ぼす勇気よりも優れているのです。

マッカの征服

ヒジュラ暦8年ラマダーン月、クライシュ族がフダイビーヤ和約を破ったため、アッラーの使徒 ﷺ は約1万の兵とともにマッカへ進まれました。彼は軍をいくつかの部隊に分け、いくつもの方向からマッカに入られました。

アブー・フライラ رضي الله عنه は、その日アッラーの使徒 ﷺ が***ハーリド・ブン・アル＝ワリードを軍の右翼の指揮官***に任じられたと伝えています（『サヒーフ・ムスリム』1780）。かつてイスラームから守ろうとした町に、ハーリドは今、イスラームの司令官として入ったのです。

スィーラの注：ハーリドのマッカ入城

イブン・イスハークによれば、ハーリドはマッカの下手（リート）から入りました。アッラーの使徒 ﷺ は司令官たちに、向かって来る者以外とは戦わないよう命じられました。

イクリマ・ブン・アビー・ジャフルやサフワーン・ブン・ウマイヤを含むクライシュの小さな一団が、***ハンダマ***でハーリドの部隊を阻もうとしました。短い衝突があり、彼らは逃げました。それ以外は、マッカはほとんど血を流すことなく開かれました。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

マッカの征服は、約束されたアッラーの助けでした：

援助章 110:1

إِذَا جَآءَ نَصْرُ ٱللَّهِ وَٱلْفَتْحُ ﴿١﴾

アッラーの援助と勝利が来て，

訳：三田了一 — quran.com/110:1

マッカ征服の後、ハーリドは***フナインの戦い***（ヒジュラ暦8年シャウワール月）にも加わり、アッラーの使徒 ﷺ は彼を、かつて彼自身の部族が崇めていたナフラの偶像***ウッザー***を壊すために遣わされました。

教訓

マッカの征服は、慈悲に満ちた勝利を示しています。司令官たちは、必要もなく血を流さないよう命じられました。かつて偶像を守っていたハーリドが、その偶像を自らの手で壊したのです。信仰は、人をこのように内側から変えます。

ジャズィーマ族：過ちからの教訓

マッカ征服の後、アッラーの使徒 ﷺ はジャズィーマ族をイスラームに招くためにハーリドを遣わされました。ここで重大な過ちが起こり、それは『サヒーフ・ブハーリー』に正直に伝えられています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4339 番

حَدَّثَنِي مَحْمُودٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، وَحَدَّثَنِي نُعَيْمٌ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ سَالِمٍ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ بَعَثَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَالِدَ بْنَ الْوَلِيدِ إِلَى بَنِي جَذِيمَةَ، فَدَعَاهُمْ إِلَى الإِسْلاَمِ فَلَمْ يُحْسِنُوا أَنْ يَقُولُوا أَسْلَمْنَا. فَجَعَلُوا يَقُولُونَ صَبَأْنَا، صَبَأْنَا. فَجَعَلَ خَالِدٌ يَقْتُلُ مِنْهُمْ وَيَأْسِرُ، وَدَفَعَ إِلَى كُلِّ رَجُلٍ مِنَّا أَسِيرَهُ، حَتَّى إِذَا كَانَ يَوْمٌ أَمَرَ خَالِدٌ أَنْ يَقْتُلَ كُلُّ رَجُلٍ مِنَّا أَسِيرَهُ فَقُلْتُ وَاللَّهِ لاَ أَقْتُلُ أَسِيرِي، وَلاَ يَقْتُلُ رَجُلٌ مِنْ أَصْحَابِي أَسِيرَهُ، حَتَّى قَدِمْنَا عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَذَكَرْنَاهُ، فَرَفَعَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَدَهُ فَقَالَ " اللَّهُمَّ إِنِّي أَبْرَأُ إِلَيْكَ مِمَّا صَنَعَ خَالِدٌ ". مَرَّتَيْنِ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました。預言者 ﷺ はハーリド・ブン・アル＝ワリードをジャズィーマ族のもとに遣わされました。彼は彼らをイスラームに招きましたが、彼らは「私たちはイスラームに入った（*アスラムナー*）」とうまく言えませんでした。そのかわりに「私たちは宗教を変えた（*サバアナー*）、宗教を変えた」と言い続けました。するとハーリドは彼らの一部を殺し、一部を捕虜にし始め、私たち一人ひとりにその捕虜を渡しました。ある日ハーリドは、私たち一人ひとりに自分の捕虜を殺すよう命じました。私は言いました。「アッラーにかけて、私は自分の捕虜を殺さないし、私の仲間の誰も自分の捕虜を殺さない。」私たちが預言者 ﷺ のもとに着くと、そのことを話しました。預言者 ﷺ は両手を上げて、二度言われました。

「アッラーよ、私はハーリドのしたことからあなたのもとに身を引きます。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドゥッラッザーク ← マアマル・ブン・ラーシド ← ズフリー ← サーリム・ブン・アブドゥッラー ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4339 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:4339

スィーラの書によれば、アッラーの使徒 ﷺ はその後、***アリー・ブン・アビー・ターリブ*** رضى الله عنه に財を持たせて遣わし、殺された一人ひとりの血の代償（ディヤ）を払わせ、壊れた犬の水入れまで弁償させました。その後アリーは、念のため残りの財も彼らに与えました。

注：学者たちはこの話をどう理解したか

ハッタービーやイブン・ハジャルなどの学者は、ハーリドが判断（イジュティハード）を誤ったのだと説明しています。彼は *サバアナー* という言葉が、はっきりしたイスラームの表明ではないと考えたのです。アッラーの使徒 ﷺ はハーリドを故意の殺人者としては扱わず、指揮官の地位から外すこともされませんでしたが、彼の行いから身を引くと宣言し、国庫から血の代償を払われました。

この話は、偉大さが人を過ちから守るわけではないことを示しています。アッラーの使徒 ﷺ は、愛する教友の過ちを覆い隠されませんでした。

参照：

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース第 4339 番の注釈；イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハーリドのジャズィーマ族派遣の章。

教訓

イスラームは、推測によって血を流すことを許しません。イブン・ウマルは、シャリーア（イスラーム法）に反する命令だったため、自分の司令官の命令を拒む勇気

を持ち、アッラーの使徒 ﷺ はその態度を認められました。指導者への服従は、アッラーへの服従の範囲内に限られます。そして過ちは、たとえ偉大な人のものであっても、認めて償わなければなりません。

ドゥーマト・アル＝ジャンダルとナジュラーン

ヒジュラ暦 9 年、*タブーク*遠征の際、アッラーの使徒 ﷺ はハーリドを約 400 の騎兵とともに、アラビア半島北部の町 *ドゥーマト・アル＝ジャンダル*に遣わし、その王 *ウカイディル*に向かわせられました。

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハーリドをドゥーマのウカイディルのもとに遣わされ、ウカイディルが捕らえられて彼のもとに連れて来られたこと、そして彼がその命を助け、ジズヤ（人頭税）と引きかえに和平を結ばれたことを伝えています（『スナン・アビー・ダーウード』3037；アルバーニーはハサン（良好）と評価）。

スィーラの注：ナジュラーンでの布教

ヒジュラ暦 10 年、アッラーの使徒 ﷺ はハーリドをナジュラーンのハーリス・ブン・カアブ族のもとに遣わし、戦う前に三日間イスラームに招くよう命じられました。

ハーリドが彼らを招くと、彼らは戦うことなくみな入信しました。ハーリドは彼らにイスラーム、クルアーン、スンナを教えるためにとどまり、その後アッラーの使徒 ﷺ に知らせを書き送りました。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハーリドのハーリス・ブン・カアブ族派遣の章。

教訓

ハーリドは戦いに長けていただけではありません。ナジュラーンでは、布教者となり教師となりました。一つの部族全体が、一滴の血も流さずに入信したのです。まず招くようにとのアッラーの使徒 ﷺ の命令は、イスラームにおけるジハードの目的が、血を流すことではなく導きを伝えることであることを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの道に寄進された武器

アッラーの使徒 ﷺ がザカート（義務の喜捨）の徴収を命じられたとき、ハーリドを含む何人かが払わなかったと報告されました。アッラーの使徒 ﷺ は、彼への賞賛となる言葉でハーリドを弁護されました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1468 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، حَدَّثَنَا أَبُو الزِّنَادِ، عَنِ الأَعْرَجِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ أَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِالصَّدَقَةِ فَقِيلَ مَنَعَ ابْنُ جَمِيلٍ وَخَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ وَعَبَّاسُ بْنُ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم " مَا يَنْقِمُ ابْنُ جَمِيلٍ إِلاَّ أَنَّهُ كَانَ فَقِيرًا فَأَغْنَاهُ اللَّهُ وَرَسُولُهُ، وَأَمَّا خَالِدٌ فَإِنَّكُمْ تَظْلِمُونَ خَالِدًا، قَدِ احْتَبَسَ أَدْرَاعَهُ وَأَعْتُدَهُ فِي سَبِيلِ اللَّهِ، وَأَمَّا الْعَبَّاسُ بْنُ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ فَعَمُّ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَهِيَ عَلَيْهِ صَدَقَةٌ وَمِثْلُهَا مَعَهَا ". تَابَعَهُ ابْنُ أَبِي الزِّنَادِ عَنْ أَبِيهِ. وَقَالَ ابْنُ إِسْحَاقَ عَنْ أَبِي الزِّنَادِ هِيَ عَلَيْهِ وَمِثْلُهَا مَعَهَا. وَقَالَ ابْنُ جُرَيْجٍ حُدِّثْتُ عَنِ الأَعْرَجِ بِمِثْلِهِ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言いました。アッラーの使徒 ﷺ はザカートの徴収を命じられました。すると「イブン・ジャミール、ハーリド・ブン・アル＝ワリード、アッバース・ブン・アブドゥルムッタリブが支払いを拒んだ」と言われました。預言者 ﷺ は言われました。「イブン・ジャミールが拒む理由は、貧しかった彼をアッラーとその使徒が豊かにしたこと以外にない。***ハーリドについては、あなたたちはハーリドに不当なことをしている。彼は自分のよろいと戦の装備をアッラーの道に寄進したのだ。***アル＝アッバース・ブン・アブドゥルムッタリブについては、彼はアッラーの使徒 ﷺ のおじである。ザカートは彼の負担であり、さらに同じだけがそれに加わる。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← アブー・アッ＝ズィナード ← アル＝アアラジュ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ザカートの書、ハディース第1468番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

*典拠：*sunnah.com/bukhari:1468

学者たちは、徴収係がハーリドのよろいや武器を商品だと思ったのだと説明しています。アッラーの使徒 ﷺ は、それらはすべてジハードのために寄進されたものであり、ザカートはかからないと説明されました。そもそも、自分の武器をすべて寄進する人が、ザカートを惜しむはずがありません。アッラーはこう言われています：

戦利品章 8:60

وَأَعِدُّواْ لَهُم مَّا ٱسْتَطَعْتُم مِّن قُوَّةٍ وَمِن رِّبَاطِ ٱلْخَيْلِ تُرْهِبُونَ بِهِۦ عَدُوَّ ٱللَّهِ وَعَدُوَّكُمْ وَءَاخَرِينَ مِن دُونِهِمْ لَا تَعْلَمُونَهُمُ ٱللَّهُ يَعْلَمُهُمْۚ وَمَا تُنفِقُواْ مِن شَىْءٍ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ يُوَفَّ إِلَيْكُمْ وَأَنتُمْ لَا تُظْلَمُونَ ﴿٦٠﴾

かれらに対して，あなたの出来る限りの（武）力と，多くの繋いだ馬を備えなさい。それによってアッラーの敵，あなたがたの敵に恐怖を与えなさい。かれら以外の者にも，またあなたがたは知らないがアッラーが知っておられる者にも。あなたがたが，アッラーの道のために費やす凡てのものは，十分に返済され，あなたがたは不当に扱われることはないのである。

訳：三田了一 ― quran.com/8:60

教訓

このハディースは、武器や装備のような***動産のワクフ（寄進）***を示す最初期の根拠の一つです。ハーリドは自分のために財を蓄えず、戦の装備をウンマのために差し出しました。また、他人を急いで責めてはならないことも学びます。アッラーの使徒 ﷺ は、その誤った非難を不当なことだと言われたのです。

「私の教友たちをののしってはならない」

ハーリドは決断が早く、すぐに行動する人でした。その性格から、時に厳しい言葉を口にすることもありました。あるとき、マッカの初期に入信したアブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضى الله عنه との間でいさかいが起きました：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2541 番 A

حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ أَبِي صَالِحٍ، عَنْ أَبِي، سَعِيدٍ قَالَ كَانَ بَيْنَ خَالِدِ بْنِ الْوَلِيدِ وَبَيْنَ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَوْفٍ شَىْءٌ فَسَبَّهُ خَالِدٌ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم " لاَ تَسُبُّوا أَحَدًا مِنْ أَصْحَابِي فَإِنَّ أَحَدَكُمْ لَوْ أَنْفَقَ مِثْلَ أُحُدٍ ذَهَبًا مَا أَدْرَكَ مُدَّ أَحَدِهِمْ وَلاَ نَصِيفَهُ " .

訳：

アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه は言いました。ハーリド・ブン・アル＝ワリードとアブドゥッラフマーン・ブン・アウフの間で何かがあり、ハーリドが彼をののしりました。するとアッラーの使徒 ﷺ は言われました。*「私の教友の誰一人ののしってはならない。たとえあなたたちの一人がウフド山ほどの金を施しても、彼らの一人が施した一ムッド（ひとすくい）にも、その半分にも及ばないのだ。」*

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ウスマーン・ブン・アビー・シャイバ ← ジャリール・ブン・アブドゥルハミード ← アル＝アアマシュ ← アブー・サーリフ・ザクワーン ← アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』教友の美徳の書、ハディース第 2541 番 a。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。最も真正な二つのハディース集（二サヒーフ）の一つである。

典拠： sunnah.com/muslim:2541a

学者たちは、この言葉が、先に信仰した教友たちの価値を知るように、ハーリドと後から入信した人々に向けられたものだと説明しています。アブドゥッラフマーン・ブン・アウフは、イスラームが弱かった頃にマッカで入信し、ハーリドはフダ

イビーヤの後に入信しました。アッラーご自身がこの二つの集団を区別されています：

鉄章 57:10

وَمَا لَكُمْ أَلَّا تُنفِقُوا۟ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ وَلِلَّهِ مِيرَٰثُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ لَا يَسْتَوِى مِنكُم مَّنْ أَنفَقَ مِن قَبْلِ ٱلْفَتْحِ وَقَٰتَلَ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ أَعْظَمُ دَرَجَةً مِّنَ ٱلَّذِينَ أَنفَقُوا۟ مِنۢ بَعْدُ وَقَٰتَلُوا۟ ۚ وَكُلًّا وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلْحُسْنَىٰ ۚ وَٱللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿١٠﴾

どんな訳であなたがたは，アッラーの道のため施さないのか。本当に天地の遺産の相続は，アッラーに属する。あなたがたの中，勝利の前に（財を）施し戦闘する者と，後からそうする者と同じではない。これらの者は，（勝利の）後に施して戦闘する者よりも高位である。だがアッラーは，凡ての者に善（き報奨）を約束された。本当にアッラーは，あなたがたの行うことを熟知なされる。

訳：三田了一 — quran.com/57:10

教訓

戦場での英雄ぶりは、他人を見下す権利を与えません。アッラーの使徒 ﷺ は、ご自身が「アッラーの剣」と名づけた司令官を、先に信仰した教友の名誉を守るために戒められました。この節はまた、両方の集団に最善が約束されていることを思い出させます。だから私たちは、アッラーの使徒 ﷺ のすべての教友を敬うのです。

「私は人の心を探るよう命じられていない」

ヒジュラ暦 10 年、アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه はイエメンからアッラーの使徒 ﷺ に少しの金を送りました。彼はその心をイスラームに近づけるために、それを四人のアラブの有力者に分けられました。一人の男が異を唱え、ハーリドがすぐに動きました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4351 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَاحِدِ، عَنْ عُمَارَةَ بْنِ الْقَعْقَاعِ بْنِ شُبْرُمَةَ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنِ أَبِي نُعْمٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا سَعِيدٍ الْخُدْرِيَّ، يَقُولُ بَعَثَ عَلِيُّ بْنُ أَبِي طَالِبٍ ـ رضى الله عنه ـ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْيَمَنِ بِذُهَيْبَةٍ فِي أَدِيمٍ مَقْرُوظٍ لَمْ تُحَصَّلْ مِنْ تُرَابِهَا، قَالَ فَقَسَمَهَا بَيْنَ أَرْبَعَةِ نَفَرٍ بَيْنَ عُيَيْنَةَ بْنِ بَدْرٍ، وَأَقْرَعَ بْنِ حَابِسٍ وَزَيْدِ الْخَيْلِ، وَالرَّابِعُ إِمَّا عَلْقَمَةُ وَإِمَّا عَامِرُ بْنُ الطُّفَيْلِ، فَقَالَ رَجُلٌ مِنْ أَصْحَابِهِ كُنَّا نَحْنُ أَحَقَّ بِهَذَا مِنْ هَؤُلاَءِ. قَالَ فَبَلَغَ ذَلِكَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ " أَلاَ تَأْمَنُونِي وَأَنَا أَمِينُ مَنْ فِي السَّمَاءِ، يَأْتِينِي خَبَرُ السَّمَاءِ صَبَاحًا وَمَسَاءً ". قَالَ فَقَامَ رَجُلٌ غَائِرُ الْعَيْنَيْنِ، مُشْرِفُ الْوَجْنَتَيْنِ، نَاشِزُ الْجَبْهَةِ، كَثُّ اللِّحْيَةِ، مَحْلُوقُ الرَّأْسِ، مُشَمَّرُ الإِزَارِ، فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، اتَّقِ اللَّهَ. قَالَ " وَيْلَكَ أَوَلَسْتُ أَحَقَّ أَهْلِ الأَرْضِ أَنْ يَتَّقِيَ اللَّهَ ". قَالَ ثُمَّ وَلَّى الرَّجُلُ، قَالَ خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ يَا رَسُولَ اللَّهِ، أَلاَ أَضْرِبُ عُنُقَهُ قَالَ " لاَ، لَعَلَّهُ أَنْ يَكُونَ يُصَلِّي ". فَقَالَ خَالِدٌ وَكَمْ مِنْ مُصَلٍّ يَقُولُ بِلِسَانِهِ مَا لَيْسَ فِي قَلْبِهِ. قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم " إِنِّي لَمْ أُومَرْ أَنْ أَنْقُبَ قُلُوبَ النَّاسِ، وَلاَ أَشُقَّ بُطُونَهُمْ " قَالَ ثُمَّ نَظَرَ إِلَيْهِ وَهْوَ مُقَفٍّ فَقَالَ " إِنَّهُ يَخْرُجُ مِنْ ضِئْضِئِ هَذَا قَوْمٌ يَتْلُونَ كِتَابَ اللَّهِ رَطْبًا، لاَ يُجَاوِزُ حَنَاجِرَهُمْ، يَمْرُقُونَ مِنَ الدِّينِ كَمَا يَمْرُقُ السَّهْمُ مِنَ الرَّمِيَّةِ ". وَأَظُنُّهُ قَالَ " لَئِنْ أَدْرَكْتُهُمْ لأَقْتُلَنَّهُمْ قَتْلَ ثَمُودَ ".

訳：

アブー・サイード・アル＝フドリーは言いました。アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه はイエメンから、なめし革に包んだ、まだ土から分けられていない少しの金をアッラーの使徒 ﷺ に送りました。彼はそれを四人の間で分けられました。ウヤイナ・ブン・バドル、アル＝アクラウ・ブン・ハービス、ザイド・アル＝ハイル、そして四人目はアルカマかアーミル・ブン・アッ＝トゥファイルでした。彼の教友の一人が「私たちのほうがこれを受けるのにふさわしい」と言いました。それが預言者 ﷺ に伝わると、彼は言われました。「あなたたちは私を信用しないのか。私は天におられる方に信頼されているのだ。天の知らせが朝に夕に私に届くのだ。」すると、目がくぼみ、頬骨が高く、額が突き出て、ひげが濃く、頭を剃り、腰布をたくし上げた男が立ち上がり、「アッラーの使徒よ、アッラーを畏れなさい」と言いました。彼は言われました。「なんということを。私こそ地上で最もアッラーを畏れるべき者ではないか。」そして男は立ち去りました。***ハーリド・ブン・アル＝ワリードが言いました。「アッラーの使徒よ、彼の首をはねましょうか。」彼は言われました。「いけない。彼は礼拝をしているかもしれない。」*** ハーリドは言いました。「心にないことを口で言う礼拝者がどれほど多いことか。」アッラーの使徒 ﷺ は言われました。***「私は人々の心を探ることも、その腹を裂くことも命じられていない。」*** それから立ち去るその男を見て言われました。「この男の子孫から、アッラーの書をすらすらと読むが、それが喉を越えない人々が出てくるだろう。彼らは、矢が獲物を突き抜けるように宗教から抜け出るだろう。」伝承者は言いました。彼はこうも言われたと思います。「もし私が彼らに出会えば、サムード族が滅ぼされたように彼らを殺すだろう。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アブドゥルワーヒド・ブン・ズィヤード ← ウマーラ・ブン・アル＝カアカーウ ← アブドゥッラフマーン・ブン・アビー・ヌウム ← アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4351 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： sunnah.com/bukhari:4351

異を唱えた男は、学者たちによれば、ズー・アル＝フワイスィラ・アッ＝タミーミーです。彼の子孫と考え方から、のちにアリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه を殺した*ハワーリジュ派*が生まれました（第 2 巻参照）。

教訓

私たちは人を外に表れたことで判断し、心の中のことはアッラーにゆだねます。これはイスラームの大切な原則です。アッラーの使徒 ﷺ を守ろうとするハーリドの熱意は評価されましたが、その熱意は知識によって導かれなければなりません。このハディースはまた、崇拝には熱心でもウンマに対して厳しく極端な人々について警告しています。

「アッラーの良きしもべ」

あるときアブー・フライラ رضى الله عنه がアッラーの使徒 ﷺ と一緒にいると、人々がそばを通り過ぎていきました。彼は通る一人ひとりについて尋ね、評価を下されました。ハーリドが通ると、彼をほめられました：

ハディース ― 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 3846 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، قَالَ حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ هِشَامِ بْنِ سَعْدٍ، عَنْ زَيْدِ بْنِ أَسْلَمَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ نَزَلْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَنْزِلاً فَجَعَلَ النَّاسُ يَمُرُّونَ فَيَقُولُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم " مَنْ هَذَا يَا أَبَا هُرَيْرَةَ " . فَأَقُولُ فُلاَنٌ . فَيَقُولُ " نِعْمَ عَبْدُ اللَّهِ هَذَا " . وَيَقُولُ " مَنْ هَذَا " . فَأَقُولُ فُلاَنٌ . فَيَقُولُ " بِئْسَ عَبْدُ اللَّهِ هَذَا " . حَتَّى مَرَّ خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ فَقَالَ " مَنْ هَذَا " . فَقُلْتُ هَذَا خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ . فَقَالَ " نِعْمَ عَبْدُ اللَّهِ خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ سَيْفٌ مِنْ سُيُوفِ اللَّهِ " . قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ غَرِيبٌ وَلاَ نَعْرِفُ لِزَيْدِ بْنِ أَسْلَمَ سَمَاعًا مِنْ أَبِي هُرَيْرَةَ وَهُوَ عِنْدِي حَدِيثٌ مُرْسَلٌ . وَفِي الْبَابِ عَنْ أَبِي بَكْرٍ الصِّدِّيقِ .

訳：

アブー・フライラは言いました。私たちはアッラーの使徒 ﷺ とある場所に止まり、人々が私たちのそばを通り始めました。アッラーの使徒 ﷺ は「アブー・フライラよ、これは誰か」と尋ねられました。私は「何某です」と答えました。彼は「アッラーの良きしもべだ」と言われました。「これは誰か」と尋ねられ、私は「何某です」と答えました。彼は「アッラーの悪しきしもべだ」と言われました。やがてハーリド・ブン・アル＝ワリードが通りました。「これは誰か」と尋ねられ、私は「これはハーリド・ブン・アル＝ワリードです」と答えました。彼は言われました。*「アッラーの良きしもべ、ハーリド・ブン・アル＝ワリード。アッラーの剣の一つである。」*

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ヒシャーム・ブン・サアド ← ザイド・ブン・アスラム ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』美徳の書、ハーリド・ブン・アル＝ワリードの美徳の章、ハディース第 3846 番。

等級： ハサン（良好）— ティルミズィーは「ハサン・ガリーブ」と評価し、ダールッサラームはハサン、アルバーニーはサヒーフと評価した。意味は『サヒーフ・ブハーリー』3757 によって裏づけられる。

典拠： sunnah.com/tirmidhi:3846

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の賞賛は、最も価値ある証言です。ハーリドがほめられたのは、財産や家柄のためではなく、アッラーの道での奮闘のためでした。アッラーの使徒 ﷺ の前を通る人は、みなその行いによって評価されました。私たちも同じです。審判の日に量られるのは、名前ではなく行いなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

リッダ戦争とヤマーマ

ヒジュラ暦 11 年にアッラーの使徒ﷺが亡くなられた後、多くのアラブ部族が背教したり、ザカートの支払いを拒んだりしました。*トゥライハ・アル＝アサディー*、*サジャーハ*、*偽預言者ムサイリマ*など、預言者を名乗る者も現れました。カリフ*アブー・バクル・アッ＝スィッディーク* رضى الله عنه は、彼らと戦うことを固く決意しました（『サヒーフ・ブハーリー』1400）。

アブー・バクルは十一の軍を編成し、その中で最も重要な軍をハーリドに任せました。ハーリドは*ブザーハ*でトゥライハを破り、ザカートを拒む部族を従わせました。

歴史の注：ヤマーマの戦い

最大の試練は、ハニーファ族の約 4 万の支持者を持つ偽預言者ムサイリマと**ヤマーマ**（ヒジュラ暦 11〜12 年）で向き合うことでした。この戦いは初期イスラーム史で最も激しい戦いの一つで、ムスリムの隊列は何度も崩れかけました。

ハーリドは、弱点がどこから来るのか分かるよう、軍を部族ごとに組み直しました。最後にムサイリマは、*「死の園」*（*ハディーカ・アル＝マウト*）と呼ばれる塀に囲まれた園で殺されました。ハムザを殺したワフシー・ブン・ハルブも、ムサイリマに槍を投げました（第 1 巻参照）。

ヤマーマでは多くのクルアーン暗誦者が殉教しました。この出来事がきっかけで、ウマルはアブー・バクルに、クルアーンを一冊の書にまとめるよう勧めたのです（『サヒーフ・ブハーリー』4986）。

参照：
タバリー『諸使徒と諸王の歴史』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注：マーリク・ブン・ヌワイラの話

リッダ戦争の中で、ハーリドはザカートを拒んだヤルブーウ族の長 ***マーリク・ブン・ヌワイラ***を殺しました。ウマル・ブン・アル＝ハッターブやアブー・カターダなど一部の教友は、マーリクの民が礼拝しているのを見た者がいたため、この行いに反対しました。

アブー・バクルは、ハーリドが判断を誤ったと見なし、国庫からマーリクの血の代償を払い、ハーリドを解任しませんでした。歴史家の間ではこの話の細部について見解が分かれ、伝承の一部は弱いものです。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』（マーリク・ブン・ヌワイラの伝記）。

教訓

リッダ戦争は、アッラーの使徒 ﷺ の逝去後、ウンマを分裂から救いました。アブー・バクルの決断とハーリドの指揮が、ウンマの一致を守ったのです。そしてヤマーマでの暗誦者たちの犠牲がクルアーン編纂のきっかけとなり、私たちは今日それを読むことができるのです。

イラクと砂漠の横断

ヒジュラ暦 12 年、アブー・バクルはハーリドを、ペルシア帝国の支配下にあった*イラク*に遣わしました。ハーリドは一年足らずで、*ザート・アッ＝サラースィル*、*ワラジャ*、*ウッライス*などの一連の戦いに勝ち、*ヒーラ*の町を開きました。

ハーリドは誰かと戦う前に、ペルシアの指導者たちに手紙を送り、イスラームか、ジズヤを払う和平に招きました。ヒーラの住民の多くは和平を選びました。

歴史の注：砂漠を越えてシャームへ

ヒジュラ暦13年、シャームのムスリム軍は大きなビザンツ軍に対して援軍を必要としていました。アブー・バクルはハーリドに、イラクからすぐにシャームへ向かうよう命じました。

ハーリドは最も速いが最も危険な道を選びました。*クラーキル*と*スワー*の間にある、水のない砂漠を五日かけて越える道です。歴史家によれば、出発前にラクダにたっぷりと水を飲ませ、必要なときにはその胃の中の水を使ったといいます。案内人*ラーフィウ・ブン・ウマイラ*は、見覚えのある一本の木を目印に、隠れた水場を見つけました。

ハーリドの軍は、ビザンツ側が予想もしなかった方向から、突然シャームに現れました。軍事史家は、この行軍を歴史上最も大胆な軍の移動の一つと見なしています。

*伝承の評価：*行軍の細部は歴史の伝承によって異なりますが、出来事の核心は歴史家の間で一致しています。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』；バラーズリー『諸国征服史』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

教訓

ハーリドは勇気と周到な計画を兼ね備えていました。やみくもに砂漠を越えたのではなく、水を用意し、熟練した案内人を選び、アッラーに信頼を置いたのです。こ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

れこそ本当のタワックル（アッラーへの信頼）です。力を尽くし、その結果をアッラーにゆだねることです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヤルムーク：最大の勝利

ヒジュラ暦 15 年ラジャブ月（西暦 636 年 8 月）、約 3 万 6 千から 4 万のムスリム軍が、現在のシリアとヨルダンの国境にある *ヤルムーク川*の谷で、はるかに大きなビザンツ軍と向き合いました。

歴史の注：ヤルムークでの作戦

ムスリムの司令官たちは、戦場での指揮をハーリドに任せることで一致しました。ハーリドは軍を約 36 から 40 の小部隊（*カラーディース*）に分け、足の速い騎兵を予備として後方に置きました。

戦いは六日間続きました。最後の日、ハーリドの騎兵がビザンツの騎兵をその歩兵から切り離しました。ビザンツ軍は谷や川のほうへ追い詰められ、大敗しました。

歴史家によれば、ハーリドは戦いの前に軍にこう言いました。「これはアッラーの日々の一日である。誇りや不正があってはならない。ジハードを誠実に行い、行いによってアッラーの御満悦を求めよ。」

伝承の評価：軍の人数は資料によって異なります。現代の歴史家は、アラビア語資料のビザンツ軍の数（最大 20 万）を誇張と見なしていますが、ビザンツ軍がはるかに大きかったことでは一致しています。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』；バラーズリー『諸国征服史』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヤルムークの勝利によって、ダマスカス、ヒムス、そしてのちにエルサレムを含むシャーム全体がイスラームに開かれました。アッラーは、戦いにおける堅固さの秘訣を信者に教えておられました：

戦利品章 8:45

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا لَقِيتُمۡ فِئَةٗ فَٱثۡبُتُواْ وَٱذۡكُرُواْ ٱللَّهَ كَثِيرٗا لَّعَلَّكُمۡ تُفۡلِحُونَ ٤٥

あなたがた信仰する者よ，（敵の）軍勢と遭遇する時は堅固に持して，専らアッラーを唱念せよ。恐らくあなたがたは勝利を得るであろう。

訳：三田了一 — quran.com/8:45

教訓

心の堅固さとアッラーを念じることは、この節に挙げられた二つの武器です。ハーリドは軍に、誇りではなく誠実さを思い出させました。ヤルムークの勝利は一人の司令官の勝利ではなく、一つになった軍へのアッラーの助けだったのです。

ウマルによる解任

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه がヒジュラ暦 13 年にカリフとなったとき、最初の決定の一つは、ハーリドに代えて*アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ*をシャームの総司令官に任じることでした。ハーリドは、アブー・ウバイダの下で司令官の一人として戦い続けました。

その後ヒジュラ暦 17 年、ウマルはハーリドを完全に解任し、マディーナに呼び戻しました。ハーリドは従いました。反乱を起こすことも、軍を分裂させることもありませんでした。

歴史の注：ウマルはなぜハーリドを解任したのか

タバリーは、ウマルが各地にこう書き送ったと伝えています。*「私がハーリドを解任したのは、怒りからでも裏切りのためでもない。人々が彼に心を奪われ、彼に頼りきることを恐れたのだ。（勝利を）なさるのはアッラーであることを、人々に知ってほしかったのだ。」*

ハーリドがこのことを尋ねられると、自分はウマルのためではなくアッラーのために戦ったと答えたとも伝えられています。一部の伝承によれば、ウマルはのちにハーリドの徳を認め、その死を惜しんだといいます。

伝承の評価：解任の詳細に関する歴史の伝承は異なり、一部は弱いものです。一致しているのは、ウマルがハーリドを解任し、ハーリドがそれを従順に受け入れたということです。

参照：

タバリー『諸使徒と諸王の歴史』（ヒジュラ暦 17 年の出来事）；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

教訓

これはハーリドについての最も感動的な話の一つです。一度も敗れたことのない司令官が、カリフの決定を異議なく受け入れました。彼の誠実さは、地位を取り上げ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

られたときに明らかになったのです。ウマルもまた、どれほど偉大であっても人間に頼りきってはならないことをウンマに教えました。勝利はアッラーから来るからです。

寝床での最期

ハーリドはヒジュラ暦 ***21 年***（西暦 642 年）に亡くなりました。よく知られた説によれば、シャームの***ヒムス***で亡くなり、そこに葬られました。マディーナで亡くなったとする歴史家もいます。およそ六十歳でした。

歴史の注：亡くなる前のハーリドの言葉

ハーリドは死の床でこう言ったと伝えられています。 ***「私はこれほど多くの戦いに加わった。私の体には、剣の傷、槍の傷、矢の傷のない所は一手幅もない。それなのに今、私はラクダが死ぬように寝床の上で死んでいく。臆病者たちの目が決して眠れないように。」***

また彼は、馬と武器と一人の従者のほかにはほとんど財産を残さず、それらすべてをアッラーの道のために遺したと伝えられています。

伝承の評価：この言葉は非常に有名で歴史家に引用されていますが、その伝承経路はサヒーフ（真正）の水準には達していません。意味はハーリドの生涯とよく合っています。

参照：
イブン・アサーキル『ダマスカス史』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；ザハビー『高貴な人々の伝記』。

ハーリドの訃報がマディーナに届くと、マフズーム家の女性たちは彼のために泣きました。ブハーリーは、ウマル رضى الله عنه がこう言ったと伝えています。 ***「頭に土をかけたり、泣き叫んだりしない限り、アブー・スライマーンのために泣かせておきなさい。」*** （『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、第 1291 番の前に伝承経路を省いて引用）

教訓

ハーリドは戦場での殉教を望みましたが、アッラーは彼が寝床で亡くなるよう定められました。学者たちは、誠実にアッラーに殉教を願う者には、たとえ寝床で死ん

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

でも殉教者の位が与えられると教えています（『サヒーフ・ムスリム』1909）。アッラーは、人がどのように死ぬかだけでなく、その意図と努力をご覧になるのです。

ハーリドの物語の典拠

この表は、読者が真正なものと有名なだけのものを区別できるよう、それぞれの話の典拠と評価をまとめたものです。

話	典拠	評価
マイムーナの家でのハーリドとダッブ	『サヒーフ・ブハーリー』5391	サヒーフ
ガミームのハーリド（フダイビーヤ）	『サヒーフ・ブハーリー』2731	サヒーフ
イスラームはそれ以前を消す	『サヒーフ・ムスリム』121	サヒーフ
ムウタでの「アッラーの剣」の呼び名	『サヒーフ・ブハーリー』3757	サヒーフ
折れた九本の剣	『サヒーフ・ブハーリー』4265	サヒーフ
マッカ征服での右翼	『サヒーフ・ムスリム』1780	サヒーフ
ジャズィーマ族	『サヒーフ・ブハーリー』4339	サヒーフ
ドゥーマト・アル＝ジャンダルのウカイディル	『スナン・アビー・ダーウード』3037	ハサン
よろいと武器の寄進	『サヒーフ・ブハーリー』1468	サヒーフ
「私の教友たちをののしってはならない」	『サヒーフ・ムスリム』2541	サヒーフ
「人の心を探るよう命じられていない」	『サヒーフ・ブハーリー』4351	サヒーフ
「アッラーの良きしもべ」	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3846	ハサン
入信の話	ワーキディー；イブン・サアド	スィーラ
ムウタでの退却作戦	ワーキディー；イブン・カスィール	スィーラ

話	典拠	評価
ヤマーマ、イラク、砂漠、ヤルムーク	タバリー；バラーズリー	歴史
亡くなる前の言葉	イブン・アサーキル	有名だが経路は弱い
帽子の中の預言者 ﷺ の髪	アブー・ヤアラー；ハーキム	見解が分かれる
ヒーラで毒を飲んだ話	アブー・ヤアラー；タバラーニー	見解が分かれる

ハーリドの物語に登場する人物

人物	役割
アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ	ハーリドの父。イスラームに敵対したマフズーム家の指導者
マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス	ハーリドのおば。アッラーの使徒 ﷺ の妻
アムル・ブン・アル＝アース	ハーリドとともに入信。のちのエジプトの征服者
ウスマーン・ブン・タルハ	カアバの鍵の保持者。ハーリドとともに入信
ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハ	ハーリドが指揮を取る前にムウタで殉教した三人の司令官
アブドゥッラー・ブン・ウマル	ジャズィーマ族の捕虜を殺すことを拒んだ
アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ	ハーリドにののしられた初期の教友。アッラーの使徒 ﷺ が彼をかばった
ウカイディル	ハーリドが捕らえたドゥーマト・アル＝ジャンダルの王
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	ハーリドをリッダ戦争、イラク、シャームに遣わした初代カリフ
偽預言者ムサイリマ	ヤマーマで殺された偽預言者
アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ	ハーリドの後のシャーム総司令官（第 4 巻）
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	ハーリドを解任した第 2 代カリフ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーリドの物語に登場する場所

場所	出来事
マッカ	生誕地；マッカの征服（ヒジュラ暦 8 年）
ウフド	ハーリドの騎兵の攻撃（ヒジュラ暦 3 年）
ガミーム	ハーリドの騎兵がアッラーの使徒 ﷺ を阻む（ヒジュラ暦 6 年）
ムウタ（ヨルダン）	アッラーの剣の呼び名；折れた九本の剣（ヒジュラ暦 8 年）
ドゥーマト・アル＝ジャンダル	ウカイディルの捕縛（ヒジュラ暦 9 年）
ナジュラーン	ハーリス・ブン・カアブ族の入信（ヒジュラ暦 10 年）
ブザーハとヤマーマ	リッダ戦争（ヒジュラ暦 11〜12 年）
ヒーラ（イラク）	和平によって開かれる（ヒジュラ暦 12 年）
クラーキル〜スワーの砂漠	シャームへの五日間の行軍（ヒジュラ暦 13 年）
ヤルムーク	ビザンツに対する大勝利（ヒジュラ暦 15 年）
ヒムス（シリア）	ハーリドの逝去の地と墓（ヒジュラ暦 21 年）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーリドの生涯の年表

年	出来事
ヒジュラ前約 30 年	マッカのマフズーム家に生まれる
ヒジュラ暦 3 年	ウフドでクライシュの騎兵を率いる
ヒジュラ暦 5 年	塹壕の戦いでクライシュ側にいる
ヒジュラ暦 6 年	ガミームでクライシュの先遣隊を率いる（フダイビーヤ）
ヒジュラ暦 8 年（サファル月）	アムル・ブン・アル＝アースとともにマディーナで入信
ヒジュラ暦 8 年（ジュマーダー・アル＝ウーラー月）	ムウタの戦い；アッラーの剣と呼ばれる
ヒジュラ暦 8 年（ラマダーン月）	マッカの征服；右翼を指揮
ヒジュラ暦 8 年（シャウワール月）	ジャズィーマ族；フナインの戦い；ウッザーを壊す
ヒジュラ暦 9 年	タブーク遠征でドゥーマト・アル＝ジャンダルへ
ヒジュラ暦 10 年	ナジュラーンのハーリス族をイスラームに招く
ヒジュラ暦 11〜12 年	リッダ戦争；ブザーハとヤマーマ
ヒジュラ暦 12 年	イラクとヒーラを開く
ヒジュラ暦 13 年	砂漠を越えてシャームへ；ウマルがアブー・ウバイダを任命
ヒジュラ暦 15 年	ヤルムークの勝利
ヒジュラ暦 17 年	ウマルにより完全に解任される
ヒジュラ暦 21 年	ヒムスで逝去

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーリドについてよくある質問

この章では、ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضى الله عنه についてよく尋ねられる質問に答えます。答えは簡潔にしています。詳しくは前の章をご覧ください。

1. ハーリドに「アッラーの剣」という呼び名を与えたのは誰ですか。

ムウタの戦いを告げたときのアッラーの使徒 ﷺ ご自身です。「ついにアッラーの剣の一つが旗を取った」（『サヒーフ・ブハーリー』3757）。

2. ハーリドはいつ入信しましたか。

ヒジュラ暦 8 年の初め、フダイビーヤ和約の後、マッカ征服の前に、アムル・ブン・アル＝アースとウスマーン・ブン・タルハとともに入信しました。

3. ハーリドは一度も負けなかったというのは本当ですか。

入信後、彼が指揮した戦いで負けたことはありません。ムウタでは、はるかに大きな敵に囲まれたムスリム軍を救いました。

4. ハーリドとアッラーの使徒 ﷺ はどのような関係ですか。

ハーリドのおばマイムーナ・ビント・アル＝ハーリスが、アッラーの使徒 ﷺ の妻です（『サヒーフ・ブハーリー』5391）。父もクライシュ族で、預言者 ﷺ の遠い親族でした。

5. ムウタでハーリドの手の中で何本の剣が折れましたか。

九本です。イエメンの剣一本だけが残りました（『サヒーフ・ブハーリー』4265）。

6. アッラーの使徒ﷺはなぜ、ハーリドがジャズィーマ族にしたことから身を引くと言われたのですか。

ハーリドが、はっきりしない言葉でイスラームを表明した人々を殺したからです。それは判断の誤りでした。預言者 ﷺ は彼らの血の代償を払われました（『サヒーフ・ブハーリー』4339）。

7. ハーリドが帽子の中に預言者ﷺの髪を入れていたというのは本当ですか。

この話はアブー・ヤアラーとハーキムが伝えていますが、伝承経路についてハディース学者の見解が分かれており、確かとは言えません。

8. ハーリドが毒を飲んでも害がなかったというのは本当ですか。

この話は見解の分かれる伝承経路で伝えられ、真正とは確かめられていません。ハーリドの偉大さは、真正なハディースによってすでに証明されています。

9. ウマルはなぜハーリドを解任したのですか。

タバリーの伝承によれば、ウマルは人々がハーリドに頼りきり、勝利がアッラーから来ることを忘れるのを恐れました。そして裏切りのために解任したのではないと強調しました。

10. ハーリドはどこに葬られていますか。

よく知られた説では、シリアのヒムスです。そこには彼の名を冠したモスクがあります。

11. ハーリドは殉教者として亡くなったのですか。

彼は寝床で亡くなりました。しかし、誠実に殉教を願った者には、寝床で死んでも殉教者の位が与えられます（『サヒーフ・ムスリム』1909）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

12. ハーリドの物語の最大の教訓は何ですか。

過去は導きの扉を閉ざさないこと、偉大さは過ちのなさを意味しないこと、そして勝利は人間ではなくアッラーから来るということです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضى الله عنه の物語は、ウフドでムスリムを攻撃したクライシュの司令官から始まり、イラクとシャームを開いた後に寝床で亡くなった一人の信仰者で終わります。その間には、アッラーの道における十三年の奮闘がありました。

教訓	ハーリドの物語から
導きの扉はいつも開いている	ウフドの敵がアッラーの剣となった
戦いにおける知恵	ムウタでの賢い退却が軍を救った
過ちを認めること	アッラーの使徒 ﷺ がジャズィーマ族での過ちから身を引かれた
先人を敬うこと	「私の教友たちをののしってはならない」
外に表れたことで判断すること	「私は人の心を探るよう命じられていない」
ウンマのための寄進	アッラーの道に寄進されたよろいと武器
誠実さと服従	解任を異議なく受け入れたこと

私たちの暮らしの中のハーリド

私たちが剣を手にすることはないかもしれません。それでも、ハーリドの資質を受け継ぐことはできます。決断する勇気、周到な計画、忠告を受け入れること、そして地位がなくても誠実に働くことです。正されることを広い心で受け入れるとき、あるいは認められなくても尽くし続けるとき、私たちはハーリドの足跡をたどっているのです。

彼の物語はまた、誰についても望みを捨ててはならないことを教えています。今日イスラームから遠い人が、明日その最も強い守り手になるかもしれません。アッラ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ーの使徒 ﷺ がハーリドを明るい顔で迎えられたように、彼らの導きのために祈りましょう。

インシャーアッラー、『イスラームの英雄』シリーズは、ウンマの信頼の人アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフへと続きます。アッラーが、アブー・スライマーン、アッラーの剣、ハーリド・ブン・アル＝ワリードを嘉され、私たちをアッラーの使徒 ﷺ とその教友たちとともに楽園に集めてくださいますように。

参考文献

クルアーンと解釈

聖クルアーン、ウスマーン版の本文と三田了一訳。quran.com

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈（タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム）』（イムラーン家章 3:152；戦利品章 8:38、8:45、8:60；鉄章 57:10；戦列章 61:4；援助章 110:1）。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1291、1400、1468、2731、3757、4262、4265、4339、4351、4986、5391。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』121、1780、1909、2541。sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』3037。sunnah.com/abudawud

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3846。sunnah.com/tirmidhi

スィーラ、歴史、伝記の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）。

ワーキディー『マガーズィー（遠征記）』。

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』（ハーリド・ブン・アル＝ワリードの伝記）。

タバリー『諸使徒と諸王の歴史（ターリーフ・アッ＝ルスル・ワ・アル＝ムルーク）』。

バラーズリー『諸国征服史（フトゥーフ・アル＝ブルダーン）』。

イブン・アサーキル『ダマスカス史（ターリーフ・ディマシュク）』。

イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ）』。

ザハビー『高貴な人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『アル＝イサーバ』；『ファトフ・アル＝バーリー』。

サフィーウッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

Wikipedia「Khalid ibn al-Walid」。en.wikipedia.org/wiki/Khalid_ibn_al-Walid

QURANSCIENCE.MY の関連シリーズ

『イスラームの英雄』第 1 巻：ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ、第 2 巻：アリー・ブン・アビー・ターリブ。quranscience.my/#pahlawan

『預言者伝（スィーラ）』第 10 巻（ウフドの戦い）。quranscience.my/#sirah

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません。**研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません。**アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه 。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيد - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه 。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。

海外からのご寄付：上の PayPal QR コードを読み取るか、こちらへ paypal.me/quranscience